本を読む子は
かならず伸びる

深める絆
親子で読書

山形県 PTA 連合会では、親子読書をとおして生涯学習を進め、
親子で学び、親子のコミュニケーションの活性化により、
親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願い、この運動を推進します。

令和2年度の取り組み

毎月第3日曜日（家庭の日）は、「親子読書の日」

- PTA の研修会や教育懇談会でも親子読書を話題にしましょう。
- 親子で近くの図書館に行きましょう。
- 「親子読書の日」三原則
  - 20 分間はテレビを消してゆっくり読書
  - 家の人みんなで楽しい読書
  - 読書ではじまる親子のコミュニケーション

親子読書にチャレンジするPTAを応援

- 頑張っています PTA ／例
  - PTAによる学校図書館の環境整備
  - PTAで放課後や休日に学校図書館を利用する活動
  - 読み聞かせボランティア
  - 親子読書リレー
  - 親子読書会
  - ノーゲーム、ノーテレビで読書の時間
  - 親子で図書館に出かける日を設定　等々

「親子で読み合いたい一冊」

- 募集期間　令和２年７月１日から９月30日まで
- 対　　象　小学校・中学校の子ども、保護者、教職員
- 送 り 先　山形県PTA連合会事務局（裏面様式による）

【郵送】〒990-0031 山形市十日町1-6-6
山形県保健福祉センター内
【FAX】023-635-4359 【E-mail】info@ymgt-pta.jp

ＦＡＸ通信

山形県PTA連合会　宛　FAX 023-635-4359

TEL　023-631-0055　　E-mail　info@ymgt-pta.jp

● **募　　集**

「親子で読み合いたい一冊」

● **募集期間**

令和2年 7月1日 から 9月30日まで

■ **応募者欄（様式）**　※注 新聞等に名前・学校名等を公表させていただくことがありますので、ご了承ください。

学　校　名		学　　年	
応募者住所		電話番号	

子ども氏名	
本の題名	
著　者　名	
《この本を選んだ理由》	

親教師氏名	
本の題名	
著　者　名	
《この本を選んだ理由》	

PTA担当者へのお願い　児童・生徒数分をコピーしてお使いください。

親子読書のすすめ

山形県ＰＴＡ連合会

山形県ＰＴＡ連合会では、お母さん、お父さん、家族で一緒に読書を楽しむ、「親子読書」をすすめています。親子読書をとおして家庭で生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーションが活発になり、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願っています。

親子読書をすすめるにあたって

～山形県ＰＴＡ連合会では、次のことを薦めています～

◎毎月第３日曜日（家庭の日）は、「親子読書の日」

◇家族ぐるみで、生活の中に読書を位置づけてみてはいかがですか。

お母さんだけでなく、お父さんの低い声も魅力的です。ぜひ子どもたちに読み聞かせをしてみてはいかがですか。各ご家庭の事情で無理のない時間帯に「親子読書」の時間を見つけてください。夕食後、テレビを消して 20 分間。就寝前の 20 分間。親も子も読書に集中できる時間を見つけてください。

◇身近に本のある環境をつくってみてはいかがですか。

身近に子どものための本を置いて、暮らしの中に本のある環境を工夫されてはいかがですか。家族みんなが集まる場所や子どもが手に取りやすい場所に本を置いておくのも良いことです。

◇子どもの誕生日などの記念日に、子どもの好きな本を贈るのもいいですね。

「親子読書の日」三つのねがい

- 20 分間はテレビを消してゆっくり読書
- 家の人みんなで楽しい読書
- 読書ではじまる親子のコミュニケーション

◎ＰＴＡの研修会でも「親子読書」を話題にしてください。

◇ＰＴＡ研修会では、「親子読書」のいろんなアイディアが出されています。

◇「親の読書を見て子は育つ」子どもを読書の世界へ誘う親の姿は効果的です。

◇「読書習慣が学力をアップ」国際的な学力調査（ＰＩＳＡ）では本をよく読む生徒は読まない生徒より「読解力」の平均点が 25 点も高かったそうです。

◎親子で近くの図書館に行きましょう。

◇村山市は「読書シティむらやま」を宣言し、市立図書館の利用も 10 倍に増えて、本に親しむ環境づくりが推進されています。あなたの町の図書館にもきっと掘り出しものがありますよ。子どもと一緒に図書探検もいいですね。

◇親子読書会のために夜間開館している図書館もありますよ。夕食が終わって一段落した午後 7 時 30 分から 9 時まで実施されているようです。

◎「親子で読み合いたい一冊」の募集

応募者の中から抽選で、児童、生徒、保護者（教職員）それぞれ１０人に図書券を進呈

◇広報紙に氏名、学校名、本名、コメントが公表されることがあります。

◇応募方法・・・各学校に配布されている様式をコピーするか、または県ＰＴＡのホームページに様式がありますのでダウンロードしてお使いください。

◇募集期間・・・令和２年７月１日から９月３０日まで

◇応募先　・・・下記の３つの方法から選んで応募ください。

①ＦＡＸ　０２３－６３５－４３５９

②Ｅメール（ホームページに様式があります.）**info@ymgt-pta.jp**

③郵　送　山形県ＰＴＡ連合会事務局宛　（〒990-0031）山形市十日町 1-6-6

読み聞かせは「愛の時間」

学校図書館アドバイザー／県Ｐ連・親子読書推進委員　**五十嵐絹子**

今、自分の子育てを思い返すと、勤めを持ちながら、心の余裕もなく、ただがみがみと子どもをせき立てる毎日でした。ある時、子どもをひどく叱りつけながらふと鏡を見ると、そこには目をつり上げた夜叉が映っているではありませんか。我ながらギョッとして、こんな母ではいけないと反省しても、また同じような日々を繰り返していました。

でも、夜寝る時の絵本の読みきかせだけは毎日の習慣にしていました。絵本を読んで早く寝かせつけ、残った仕事を片付けたい気持ちが半分、学校司書という仕事柄、絵本を「読んであげねばならない」義務感が半分というのが本音でしたが…。

がみがみ母さんの罪滅ぼしタイム

それでも、親子揃って布団から顔だけ出し絵本を開くと、まぬけなオオカミに笑い、はだしで山を駆け下りる豆太にはらはらしたり、子ぶたの知恵に喜んだり、オニに感動したり、共に絵本の世界を楽しみ、一緒に眠りにつくのでした。いつも優しいよい母でいる事は難しいけれど、絵本を読むうち、自分を取り戻すほっとする安らぎの時間になり、がみがみ母さんの罪滅ぼしタイムにもなっていたような気がします。

その子どもたちも中学生や高校生になり、本棚に溢れている絵本ももう出番がなくなりました。ある時、まだ小さい姪たちに絵本を上げようと本棚から抜き出していると、娘が飛んできて「えー、それだめ、その本やらないで」と私の手から絵本を取り上げて本棚に戻すのでした。どれも角がすり切れ古びていましたが、毎夜読んで貰った絵本たちは、娘にとって幼い日の思い出が詰まった大切な心の財産だったのでしょうか。娘たちも母親になりました。昔の絵本がまた登場し、毎夜両脇に息子たちを寝せながら読みきかせをしています。形まで同じです。自分が育てられたように子育てをする、という言葉を思い出します。

読書習慣が学力をアップ

椋鳩十氏が「二十分間親子読書」を提唱したのは今から五十年前。「子どもが本を読むのを聞いて一緒に読書を楽しみましょう」というものでした。テレビが普及し始めた頃です。時代が進み、いま、「親子読書」の大切さがさらに切実な意味合いを持ってきているような気がします。

子どもたちの生活の周辺には、テレビやゲームの映像文化が溢れ、ネットやケータイなど電子機器に囲まれ、身も心も時間も奪われている現実があります。子育てがいっそう難しい時代ではないでしょうか。このようなデジタル時代だからこそ、父や母が生の声で、素朴に語る物語の空想世界に浸る読みきかせがとても貴重なことに思われるのです。本を真ん中にして親子のコミュニケーションもはずみます。

国際的な学力調査（ＰＩＳＡ）で、本をよく読む生徒と読まない生徒の「読解力」の平均点数が二十五点以上高いことが分かりました。読書習慣が文章を読み解く力と密接に関係しているのです。家庭で読みきかせをしてもらった子どもは、読んで貰わなかった子どもより、読書への興味は約三十ポイント、学校の授業の楽しさは約二十ポイント高いという調査結果もあります。

日々慌ただしく過ぎていき、子どもが育つ時間はあっという間です。自分の子ども時代をふり返っても何と短い限定期間であったことか。けんかをしたり、叱られたりいろいろあっても、親子で絵本に浸る時間は優しく気持ちを解きほぐしてくれます。親子一緒に本の世界で遊ぶ嬉しさ…。読みきかせは「愛の時間」なのです。一日、わずか二十分だけでも親子で本を楽しんでみてはいかがでしょうか。